

## 使命感を持つアメリカの若手研究者

中部大学 分子性触媒研究センター長 教授 山本 尚

大学院を卒業して、一人前の研究者になってからであるが、我が国は古い講座制がいまだに生存しているので、教授の下請けのような行き先のない仕事を強制されているのを見かける。昔、研究テーマの寿命が長かった時期には、これでも良かったが、現在では最先端のテーマは日々どんどん変化しており、よほどでなければ、教授は時代から取り残されている場合が多く、若い研究者が場合によっては時代遅れの、現在では必要ないテーマを選ばざるを得なくなり、大変な迷惑となる。若い大切な時間を浪費する。私はこの時期に、少なくとも、彼らが今後の自分の研究スタイルが純正研究型に進むか、応用研究型に進むかだけは決めて欲しいとも思っている。そうでなければ、その後、研究の海で漂流し、年齢を取って、自分は一体何してきたのかと、その時点で忸怩たる思いが残る。さらには、この若い時期に重要なことは同年輩の競争相手を見つけることである。その点では、アメリカやヨーロッパでは恵まれた出会いの環境を作り上げている。できれば、優秀な研究者を集めて一緒に生活をさせるだけでもいい。この時期に最も大切なことは、大きな夢を持ち、自分の大きな絵を描くことである。自分は世界を動かすのだという気概こそが重要である。さらに、そうした大きな夢を持つのが自分だけでなく、そういう友人も多く存在していることを認識することはもっと大切である。

アメリカの化学が今日の世界の化学の潮流を作り、長い間、世界を先導することに成功してきた一つの大きな理由は、大学、大学院、博士研究員と場所を変え、研究のテーマも変える事で育まれる多様性である。さらには、アメリカの若い有能な助教授 assistant professor の存在なくしては語れないように感じる。博士課程を終わる頃のアメリカの大学院の若者は「すごくできる人」と「普通の人」に分かれる。とてもストイックな、すごくできる人は、相当有名な一流大学でも、10人から20人に一人いるかいないかである。しかし、その凄くできる人は、人よりも、世界を変える使命感をもち、ものすごく勉強し、世界の潮流を自分こそが切り開く、という意欲で満ち溢れており、自信満々で、会えばすぐにオーラでわかる。そうした人を、トップの大学は欲しがらる。この様なシステムはドイツやスイスでもみられるが、残念ながら、日本には、こうした若者のハンティングから養成のシステムは非常に稀である。昔、名古屋大学の平田義正教授が、京都大学の20歳代の野依良治博士を名古屋大学に大抜擢で招聘したのだけが、素晴らしい成功例ではないだろうか。残念ながら、そうしたハンティングの実例がほとんど見かけなくなったと感じる。乙卯研究所は、そういう意味では、稀に見る恵まれた環境である。

我が国の大学の教授は、普通、一つの分野を専門とし、その大学でその分野を責任を持っ

て継承してゆくことが期待されている。このため、日本では、それぞれの大学が「幕の内弁当」のように全ての学問分野にわたって様々な科学技術を万遍なく楽しめるようになっていく。明治の初期に東京にあった数少ない大学は、日本人全てのために、また、新しい社会を作り上げるために、しっかりと全分野をカバーしなければならなかったという歴史的な要請を受けたものだ。これは短時間に一気に欧米に追いつくための明治政府の手法であるが、現在ではその必要性は疑問である。今では、確かに状況は一変した。日本には非常に多くの大学がある。全部の大学が幕の内弁当になる必要はもはや必要ない。むしろ現在の我が国の大学が要求されているのは、一つの傑出した、しかもその大学でなければならぬ世界一独特の分野を作り出すことである。こうすることで、地方大学でも東大に勝てる。しかし、未だに旧来の手法を守ってきた日本の大学では、普通、教官が定年になると、その教官の分野を研究専門とする若い教官を探す。そうした教官は大抵の場合定年になる教官の弟子たちである。こうして、後継に選ばれることで同じ分野の研究がまた増える。こうしたプロセスで選ばれた教官は、後生大事にその分野を守る。これでは世界を変えるイノベーションは誕生しない。これは大変な悪循環ではないだろうか。この方法では日本中に縮小コピーの研究室がどんどん増えてゆく。米国やヨーロッパの大学では、こうした日本式の大学の研究室での科学技術の継承はない。海外では、大学教官が定年になると、その大学は研究室を閉じるだけである。新しく赴任する助教授は全く新しい研究を始めることが期待される。こうすることで、現在の世界の科学技術の要求にしっかりと答えることができる。アメリカは大学が新しい教官を雇用する場合には、長いプロポーザルを書いてもらい、その内容が世界の水準を超えて独創的な場合に、雇用を行う。その場合、退官した教官と新任の教官の間には何の関係もない。